

リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】子供一人一人が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ授業づくり

1 単元内自由進度学習及び複線型授業の実践

本校では令和5年度から、研究主題「『見方・考え方を働かせ、学び合い、高め合う児童・生徒の育成』～子ども一人一人が主語になる1人1台端末の活用を通して～」を掲げて、子供が「自己選択」「自己決定」「自己調整」できる力を身に付けることを目指した取組を重ねている。令和5年度は「単元内自由進度学習（一単元分の学習時間を子供一人一人に委ね、各自が自分のペースに合わせた計画で進める学習）」を中心に取組んだが、現在では日常的な授業にこうした趣旨の学びが定着しつつあり、1単位時間ずつを自由進度で行う「複線型授業」が中心となっている。

2 「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶための学習環境

こうした「子供に学びを委ねる」学習を保証するためには、学習環境が重要になる。

- ・ 写真①のように、自分のめあてに応じて、必要な仲間と協働的に学んだり一人で学んだりすることを各自で選択・決定できるようにすること
- ・ 写真②③のように、自分のペースで、教師が予め用意した学習コーナーや掲示物を活用したり、実験を行ったりすることができるようにすること
- ・ 写真④のように、端末へ調べたことや自分の考えを入力したり、紙のノートへ書いたりする等の選択・決定ができるようにすること

これらは、子供達が学びの中で「自己選択」「自己決定」「自己調整」を円滑に行うための必須の「環境」と考える。

例えば、一斉授業で③のような理科の実験を行う際には、一般的にグループで取り組むことが多い。グループで実験をすると、主体的に活動する子供と受動的な態度で過ごす子供とに分かれることがある。単元内自由進度学習や複線型授業では、必ず一人一人が主体的に実験に取り組むという、一斉授業に対する良さがある。それは、子供達が学び方を「自己選択」「自己決定」「自己調整」できることによる良さでもある。

さらに大切なこととして、単元内自由進度学習や複線型授業で子供達が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら主体的に学んでいると、教師のかかわり方として、多くの子供に対しては「見守る」こと、状況を確認しながら必要に応じて声を掛けたり確認したりすることが中心となる。その分、個別の支援が必要な子供に手厚くかかわることができ、その結果すべての子供に「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ機会を用意することができる。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】子供一人一人が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ授業づくり

3 クラウドを活用する良さ

クラウドを活用することで、「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶことがより容易になる。

(1) は4年理科「とじこめた空気と水」で子供が自分の学びを記録した学習カード（スプレッドシート）である。一人一人が「自分のめあて」「やること」「学習のまとめ」「振り返り」を記録しているが、一連の学習過程について他者参照ができるので、自分がすることを選択、決定、調整することによってカードは寄与している。この他にも二人一人の学習の進捗状況を参照することができるシートも活用している。

(2) は6年社会「明治の新しい国づくり」におけるある時間の板書である。本時自分がどの学習内容に取り組むかを意思表示するためネームプレートを張っている（右側）。例えば、ある子供は、当初③に取り組むと表示していたが、他者参照しながら②の内容が不十分であることに気付き、ネームプレートを②に張り替えるという様子も確認できた。他者参照が、学びの自己調整に寄与している様子であったと考える。

クラウドを活用することで、教師もより多くの子供の学びが把握できるので、指導・支援も行き届きやすくなる。

(1) 4年理科「とじこめた空気と水」におけるある子供の学習カード（一部）

③空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。			
<思考・判断・表現>①空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。			
<主体的に学習に取り組む態度>①空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。			
②空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。			
③空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。			
課題の設定>	やること<情報の収集>	まとめ	ふりかえり<★学習内容 ★学習方法>
様子について 話し合う。	教科書P110～111	空気であらうを打つときに、手のひらや手の指の力を入れて	玉が飛ぶのは、とじこめられた空気が押し寄せられて、それで玉が一瞬に飛んでいってポン！と飛ぶと思う。玉を1つを飛ばすときもポン！というけれど玉を2、3つのほうでポン！！と大きく音がなった。玉が飛ぶとき同時に手の力が抜ける気がした。押すときにぐっと力を入れたほうが玉はポン！！と飛んだから力強くすると良いと思う！ポリ袋でやると最初は押すと柔らかいけど途中から固くなる。
空気は、 うなるかを う。	教科書P112	ふくろに空気を入れてうったときに最初は柔らかいけど思いつ	100
玉を押して たえを う。	教科書P113	まず、実験1のとじこめた空気をやってみると、途中まではビ	369
空気は うなるかを	教科書P114		

(2) 6年社会「明治の新しい国づくり」における板書

課題の設定

①今日のめあて → めあてにむする「まとめ」

情報の収集

教科書 → まよひに線を引き (A 板書 受取等)

資料集

振り返り・改善

わかったこと
疑問に思ったこと
予想したこと
もっと調べたいこと

整理・分析

ワークシートに整理する

A B C から選ぶ

① ← ②

今日自分が取り組む学習内容について、ネームプレートを張って意思表示